

## 魅力ある県立短期大学づくりに係る論点の整理

第1回検討委員会及びワーキンググループにおける主な意見等をもとに、論点を整理した。

## I 時代の要請に対応した教育内容の更なる充実

## 1 既存学科の教育内容の見直し

- (1) 産業界のニーズを踏まえた教育内容の見直しが必要ではないか。
- (2) 高校生のニーズを踏まえた教育内容の見直しが必要ではないか。
- (3) 文学科については、教育内容やネーミングの見直しが必要ではないか。  
(例：外国の方に日本語教育ができる人材の育成、コミュニケーション力の強化)
- (4) 男子入学者の増加を目指した教育内容の見直しが必要ではないか。  
(例：建築デザイン系の拡充)
- (5) リカレント教育の更なる充実が必要ではないか。  
(例：長期履修制度の導入)
- (6) 鹿児島の特性を活かした教育内容の見直しは必要ないか。  
(例：観光関連産業が基幹産業であることを踏まえた見直し)

## 2 教養科目の強化

- (1) 産業界や高校生のニーズを踏まえた教養科目の見直しが必要ではないか。  
(例：コミュカ・表現力などの強化につながる科目の設定)
- (2) デジタル化やAIの時代に対応した教養科目の見直しが必要ではないか。  
(例：情報分野の強化)

## 3 定員等の見直し

- (1) 定員割れ学科の定員を減らすということではなく、既存学科の教育内容の見直しを踏まえた定員の配分変更が必要ではないか。

## II 独立行政法人化（公立大学法人化）

- (1) メリット・デメリットを踏まえて、方向性について検討する必要があるのではないか。

## III 地域社会への一層の貢献

- (1) 子供たち（小・中・高校生）に県短をよく知ってもらう必要があるのではないか。  
(例：子供たちへの学びの場の提供)
- (2) 県民を対象とした講座・講演の更なる充実が必要ではないか。
- (3) 地域との連携が必要ではないか。  
(例：地域行事等への参画)
- (4) 高校との連携強化が必要ではないか。
- (5) 企業との連携強化が必要ではないか。
- (6) 県内大学との連携強化が必要ではないか。



# 魅力ある県立短期大学づくり検討委員会及びWGにおける意見一覧

## I 時代の要請に対応した教育内容の更なる充実

### 1 既存学科の教育内容の見直し

#### (1) 産業界のニーズを踏まえた教育内容の見直しが必要ではないか。

① 企業は、即戦力やコミュニケーション力を求めており、その視点に立って、教育内容の充実を図るべき。	委員会
既存学科についての見直しについて、時代の要請に対応とあるが、今、経済界で一番欲している人材は半導体やデジタルに係る人材。 また、高齢化も進んでいるので福祉関係の人材も需要がある。 さらに、国際的な動きも今後ますます拍車するのでグローバルな人材。 これがおそらく今の時代の要請に対応する人材であるが、そもそもあらゆる業界の人材が不足している。 ② 鹿児島県は農業県として食品産業が盛んで、農業が北海道に次いで産出額が全国2位と大きく、食品加工も大きなウェイトを占めている。 建設業も人手が足りない。 そういった状況を踏まえて、既存学科の見直しや時代の要請に対応した教育内容の充実について、あらゆる業界の人手不足にも対応しなければいけない。	委員会
③ 産業界としては、コミュニケーションで成長していく学習をして欲しいと思う。人から意見をもらうだけでなく、自ら考え、提案し、理由を添える。その力が高められる学習が必要である。	WG

#### (2) 高校生のニーズを踏まえた教育内容の見直しが必要ではないか。

① 高校生の県立短期大学に対するニーズを把握することが重要ではないか。	委員会
② 今の高校生は、コミュニケーション力や発信力、協働力の向上、デジタル化に対応した教育を受けており、そういったところにニーズがあるのではないか。	委員会
③ 高校の現場では探究学習が盛んに実施されており、今後の学生にとっても探究学習は重要である。	WG
④ 高校生の進路決定に影響を与える高校の進路指導担当にもアンケートを実施した方が良い。	WG

#### (3) 文学科については、教育内容やネーミングの見直しが必要ではないか。 (例：外国の方に日本語教育ができる人材の育成、コミュニケーション力の強化)

① 定員割れしている学科については、教育内容やネーミングの見直しが必要ではないか。	委員会
② 外国に背景を持った方が多くなっているため、そういった方々に日本語教育ができる人材を育てる必要がある。	委員会
③ 英文学は「コミュニケーション教育」等にして、グローバルに活躍できる人材を育成すべき。	WG

#### (4) 男子入学者の増加を目指した教育内容の見直しが必要ではないか。 (例：建築デザイン系の拡充)

① 三重短期大学にある居住環境コースでは、男子学生が増加している。教育内容の見直しにより、男子入学者数の増加になり得る。	委員会
--	-----

#### (5) リカレント教育の更なる充実が必要ではないか。 (例：長期履修制度の導入)

① リカレント教育については、地域にとっては、なくてはならない学びの場であり、魅力を高めることが大事である。	委員会
② 社会人などのリカレント層向けに、標準修業年限を超えて履修し、学位等を取得できるようにする長期履修制度を、第二部に導入するとニーズの掘り起こしになり得る。	委員会
③ 県立短期大学の第二部は、リカレント教育の更なる充実に活用できる。	WG
④ 他大学や県内企業と連携したリカレント教育も検討していいと思う。	WG

(6) 鹿児島県の特性を生かした教育内容の見直しは必要ないか (例：観光関連産業が基幹産業であることを踏まえた見直し)	
① 【一部再掲】鹿児島県は農業県として食品産業が盛んで、農業が北海道に次いで産出額が全国2位と大きく、食品加工も大きなウェイトを占めている。	委員会
(7) その他	
① キャンパスを視察という話があったが、学生の声を聞いてみたいと感じた。	委員会
② 在校生へのアンケートが必要ではないか。なぜ県短に入学したのかを知ることは必要である。1年生と2年生では感じ方も違うと思う。	WG
③ 人材育成に関して、鹿児島にとどまらず全国や世界で活躍する視点も大切。	WG
<b>2 教養科目の強化</b>	
(1) 産業界や高校生のニーズを踏まえた教養科目の見直しが必要ではないか。 (例：コミュカ・表現力などの強化につながる科目の設定)	
① 【再掲】企業は、即戦力やコミュニケーション力を求めており、その視点に立って、教育内容の充実を図るべき。	委員会
② 【再掲】今の高校生は、コミュニケーション力や発信力、協働力の向上、デジタル化に対応した教育を受けており、そういったところにニーズがあるのではないか。	委員会
③ 【再掲】産業界としては、コミュニケーションで成長していく学習をして欲しいと思う。人から意見をもらうだけでなく、自ら考え、提案し、理由を添える。その力が高められる学習は必要である。	WG
(2) デジタル化やA Iの時代に対応した教養科目の見直しが必要ではないか。 (例：情報分野の強化)	
① A Iの時代において、これを使うために、教養はより大事になってくる。	委員会
<b>3 定員等の見直し</b>	
(1) 定員割れ学科の定員を減らすということではなく、既存学科の教育内容の見直しを踏まえた定員の配分変更が必要ではないか。	
① 少子化が想定以上に急速に進んでいることから、定員については見直さざるを得ない。	委員会
② 定員等の見直しについては、減らせば現教員を減らさないといけなくなるので、既存学科の教育内容の見直しと関連してくる。	委員会
③ 今回定員を割ったということだが、全国レベルで見れば割れたうちに入らないと思う。定員の見直しについて、一度定員を下げると、上げられなくなるので、例えば学科の人数配分を変えるなど、できるだけ定員を下げない手法を考えた方が良い。	委員会 WG
④ 「定員等の見直し」は、「既存学科の教育内容の見直し等」や「教養科目の強化」を検討した後に検討されるものである。	WG
<b>II 独立行政法人化（公立大学法人化）</b>	
(1) メリット・デメリットを踏まえて、方向性について検討する必要があるのではないか。	
① 今後、厳しい経営環境が見込まれる中で、環境変化に柔軟に対応するためには、経営的な観点からも、独法化を考える必要がある。	委員会
② 独立行政法人化については、現在こういう問題があるからこうしたなど、設置者と県短との関係性等は整理する必要がある。	WG
③ 独立行政法人化には、デメリットもあると思うので、検討資料にはメリットとデメリットを併せて記載する必要がある。	WG

### Ⅲ 地域社会への一層の貢献

<p>子供たち（小・中・高校生）に県立短期大学をよく知ってもらう必要があるのではない(1)か。          (例：子供たちへの学びの場の提供)</p>	
<p>① 総合学習として県立短期大学を訪問した近隣の小学校の6年生30数名に対し、学内見学や生活科講師によるレクチャー、勉強の仕方、生活力に係る講演を行った。</p>	委員会
<p>(2) 県民を対象とした講座・講演の更なる充実が必要ではないか。</p>	
<p>① 県民向けの講座には魅力的、面白そうなネーミングをしており、これが文学科に繋がっているということ、社会に向けてアピールするような学問システム、企業がこういう人材が欲しいという教育内容を組み立てるべきではないか。</p>	委員会
<p>② 県立短期大学の教育研究成果を適切に社会に還元し、県民全般にアピールするため、県民向けの公開講座、金曜講演会、奄美サテライト講座、地元公民館におけるシニア向け講座などを実施し社会貢献を行うとともに、受験生の増加に向けて、高校生向けの講座も実施している。</p>	委員会
<p>(3) 地域との連携が必要ではないか。          (例：地域行事等への参画)</p>	
<p>① 【再掲】県立短期大学の教育研究成果を適切に社会に還元し、県民全般にアピールするため、県民向けの公開講座、金曜講演会、奄美サテライト講座、地元公民館におけるシニア向け講座などを実施し社会貢献を行うとともに、受験生の増加に向けて、高校生向けの講座も実施している。</p>	委員会
<p>② 第一工大では高校生と連携した取組があり、純心短大も錦江町との連携がある。そのような地域との連携等により、認知を広げることも大事である。</p>	WG
<p>(4) 高校との連携強化が必要ではないか。</p>	
<p>① 高大連携や産学連携など連携の在り方を考えるべきではないか。企業と大学、高校と短大がどのように連携していくかという連携の話も入れても良いと思う。</p>	委員会
<p>② 【再掲】県立短期大学の教育研究成果を適切に社会に還元し、県民全般にアピールするため、県民向けの公開講座、金曜講演会、奄美サテライト講座、地元公民館におけるシニア向け講座などを実施し社会貢献を行うとともに、受験生の増加に向けて、高校生向けの講座も実施している。</p>	委員会
<p>③ 【再掲】第一工大では高校生と連携した取組があり、純心短大も錦江町との連携がある。そのような地域との連携等により、認知を広げることも大事である。</p>	WG
<p>(5) 企業との連携強化が必要ではないか</p>	
<p>① 【再掲】高大連携や産学連携など連携の在り方を考えるべきではないか。企業と大学、高校と短大がどのように連携していくかという連携の話も入れても良いと思う。</p>	委員会
<p>② 企業でも地域の学校と連携して企業の取組等を伝える機会がある。県短でも取り入れてはどうか。</p>	WG
<p>(6) 県内大学との連携強化が必要ではないか</p>	
<p>① 鹿児島大学法文学部では、編入学者は、県立短期大学生が多く、非常に前向きで、リーダーシップを持った人が多い。令和6年度から編入枠を10人から20人に増やしたところであり、県立短期大学との連携を更に深めたい。</p>	委員会

**IV その他**

①	地域の最大の課題として人材不足がある中で、県内定着率の観点から、県立短期大学の鹿児島における役割は大きいものがある。	委員会
②	県立短期大学は、短期大学として大きな役割を果たしている中で、安易に四年制化ではなく、短期大学としての活用をしっかりと考える必要がある。	委員会
③	国公立大学に合格した生徒が辞退をしていくのは、一般選抜だと思うので、その部分が推薦選抜にシフトするなど工夫の余地があると思う。	委員会
④	入学者選抜のあり方について、（年度内ではなく）年内に進学先を決定することを重視する傾向があるので、推薦により早期に県立短期大学に行くことを決める学生をどれだけ増やすかが重要。	委員会
⑤	商業等の専門学科の高校生に、商経学科、生活科学科へ入学してもらえるような取組が必要である。	WG
⑥	どのような学校を目指すのか、明確な方向性やビジョンを持ち、発信することが大事。	WG
⑦	県短の認知度を上げる取組が必要。	WG
⑧	県外からも人が集まるような取組が必要。	WG
⑨	国内の事例だけではなく、アメリカのコミュニティカレッジ等の外国の実態も参考に する必要があるのではないか。	WG